

言葉が享受され流行する プロセスに関しての一考察・補足

足立雅代

『甲南国文』第48号（2001年3月）に掲載していただいた抽稿、「言葉が享受され流行するプロセスに関しての一考察—サブカルチャーと認知のメカニズムとの視点から—」について、些か補いたいところが存在するので、紙面を割いていただき述べてみたい。

まず、「キレル」という言葉に関して、抽稿刊行とほぼ同時期に、山崎若菜「キレルという言葉」（『創造と思考』第11号（2001年3月））が発表された。何故、カタカナ表記されるようになったか等、抽稿の論旨の補強になることが論じられているので、参照されたいと思う。

又、ダウンタウンの松本人志の「キレル」の用法が、「ムカムカッと」して、プチプチッと堪忍袋の緒が「キレル」のだということに関しても、補足したい。2001年6月8日、大阪教育大学付属池田小学校において、児童連続殺傷事件が起こった。その容疑者と松本人志とは、兵庫県立尼崎工業高等学校の同級生であった時期がある。容疑者は、中学時代の同級生によると、「今でいうキレル性格だった。」（『サンデーモーニング』2001年6月10日放送）そうである。更に、容疑者が高校時代に記した反省文には、「俺は最初は、本当にこらえとったのに我慢ができなくなり、一髪（ママ）殴ってしまった。」（『週刊朝日』2001年6月29日号）とある。従って、ダウンタウンと同世代の「キレル」の用法とも、矛盾はしていないと考えられる。

尚、ダウンタウン（1963年生）と同世代の言語の特徴として、テレビやコミック等の影響によって、視覚的に表現する傾向があるとも指摘した。これは、「30代の女性は、ピンクレディーが踊れる。」という『探偵！ナイトスクープ』の調査（2001年10月19日放送）の結果とも、根底となるサブカルチャーを共有するものである。何故ならば、激しい振り付けを伴うピンクレディーのような歌手は、テレビという媒体無しには、成立しえないからである。